

## 第256回福島県災害対策本部員会議（概要）

災害対策本部総括班まとめ

- 1 日 時：平成24年3月12日（月）10：25～10：45
- 2 場 所：災害対策本部・自治会館303会議室
- 3 内 容：

松本副知事より

雪の状況については、今日は時間の都合もありますので、省略させていただきます。

### （1）環境放射能測定結果（暫定値）の状況について

事務局：別紙資料により説明

平成24年3月12日午前8時現在、最小値が西会津町野沢小学校の $0.03\mu\text{Sv/h}$ 、最大値は飯舘村長泥コミュニティセンターの $4.39\mu\text{Sv/h}$ となっている。概ね横ばい又は減少傾向を示している。

### （2）ワンストップ相談窓口 週報について

オフサイトセンター事務局：別紙資料により説明

先週の実績は344件。

主な問い合わせ内容としては、下記のとおり。

- ・未だ健康管理調査を受けていない方からの問い合わせ。
- ・田んぼの作付け
- ・警戒区域に入れない、融通を利かしてほしい。等

### （3）「農林水産業に関する相談窓口」の利用状況について

農林水産部長：別紙資料により説明

先週の相談件数は15件。内訳としては、出荷流通に関するものが4件、営農、家庭菜園に関するものが3件等となっている。

内容については、米のモニタリングや作付け制限関係に関する問い合わせが4件、野菜果樹のモニタリング等が2件等となっている。県外の方から福島県で100ベクレルを超える地域の米が作付けされるというふうな報道があり、米を作付けさせて大丈夫かという問い合わせがあった。これに対しては、生産管理の徹底、米の全袋検査等を実施しますというお答えをし、そういうことでやっていただけるならば逆にがんばってくださいと励ましのお言葉をいただいた。

#### **(4) 「原子力損害の賠償等に関する問い合わせ窓口」利用状況について**

**原子力損害対策担当理事：**別紙資料により説明

先週の相談件数は524件で、従来より倍以上の問い合わせとなっている。大部分は自主的避難者への賠償等の手続が始まったことでその具体的な手続の問い合わせが中心になっている。その他では、例えば緊急時避難準備区域での賠償の終期について十分な期間を取るべきではないかといった要望が中心になっている。

#### **(6) 経営・金融・労働の相談状況について**

**商工労働部長：**別紙資料により説明

先週の相談件数は22件。

金融については、制度資金に関する融資要件について。

労働については、廃棄物の回収運搬業で安全靴とか作業着とか保護具として貸与された物品が汚れた時に会社から新しい購入代金を請求された場合にどうするかといった相談があった。

#### **(7) 自家消費野菜等の放射能簡易分析に関する各市町村検査窓口の開設状況について**

**生活環境部長：**別紙資料により説明

現段階の申請受付状況についてのお知らせです。

記載はないが、概括的に2点ほど。

まず一点目全体の整備台数で、国貸与分と県貸与分併せて概ね500台を年度内に整備をするという前提で今準備をしている。現段階においては、342台。7割程度の配置ができているという状況。そのうち、現在申請受付、検査開始できているところが59市町村のうち、50市町村。残りの9市町村は、3月末あるいは4月初めぐらいを目途に検査を開始したいということで今準備を進めているという状況。

それらの状況について、備考欄に調整中であるとか今後検査開始予定とかということ付記させていただいている。いずれにしても、速やかにまず整備をして市町村で受付態勢をしっかりと整えてもらうように引き続き働きかけてまいりたい。

#### **知事より**

これは、給食の検査とはどういう関係になっているのか。

#### **生活環境部長より**

これは自家消費野菜あるいは井戸水等の検査で、住民が直接公民館や支所に持ち

込んでやってもらうもので、学校給食についてはこれとはまた別の検査。

### 知事より

文科省に行った時に話をしたが、復興庁で総括測定をそれぞれ各地域でやって、重複するようなものがあればまたそれぞれの地域で調整をしてもらいながらしたいとの話を聞いた。これは復興庁でやっているものにカウントされるというふうになっているのか、文科省とあわせてカウントしてもいいのかな。

### 教育長より

こちらについては復興庁ということ。文科省でやっているのは学校の関係。ただ、文科省に対して今回整備をお願いして2月補正で導入した分についてもこちらで整備している流れの部分もある。それはそれでちゃんと市町村に聞き、市町村には教育委員会と地方部局があるので、そこで調整をとっていただき別途環境省の流れのほうで整備している部分と文科省の今回の分での整備と併せて整備するよう調整を計っている。

### 知事より

それでやると、市町村はほぼ網羅できるのか。

### 生活環境部長より

今のところ、市町村から希望が出てきた数はそのとおり配備をするということにしているので、現状で足りていると考えている。

### 松本副知事より

特に機器類の整備は比較的進んでいると思うが、操作する人の問題があるので、それに対するオペレーションの研修みたいなものもしっかりやって住民の方々の要望に速やかに応えられるようお願いしたい。

## (8) 平成23年度除染業務講習会の開催結果について

生活環境部長：別紙資料により説明

講習会の最終回の座学と実技が終了したので、今年度の養成人数を報告する。昨年10月から1期をスタートして、この3月で3期が終了、全体15回開催した結果3,377名に知事修了証を交付できた。これに併せて、認定講習会制度を立ち上げ、川俣町主催で行った講習会を県が認定し、知事修了証と同等の効果を持たせることができ、全体で3,400名程度の除染作業者の育成ができた。新年度につ

いてはこの講習会を継続して実施することにより7, 500名程度、さらにレベルアップした講習ということで現場の作業員を束ねる立場にある監督者の講習、市町村が契約の履行状況を確認する施工管理者の講習、こうしたものを併せて実施していきたい。

### (9) 県産材製材品の放射線等調査結果について

農林水産部長：別紙資料により説明

建築資材の砕石等の問題があり、製材品の状況について確認をするために1月から3月にかけて調査をした。調査事業者数は、警戒区域から緊急時避難準備区域あるいは線量の高い区域ということで、該当が93事業所あり、そのうち昨年3月の原発事故後に製材品を出荷していた49の事業者について調査をした。事業者の内訳は表のとおり。

調査は、製材品の表面線量調査ということで、加工されて出荷する段階の製材品になっているものについて、サーベイメータで表面の線量を測った。49事業所における表面線量調査結果は5(1)表のとおり、最大値で92cpm、産総研のSv換算で0.0031μSv/hという結果になった。製材品については出荷の基準はないので、健康上への影響等について長崎大学松田先生と放医研の鈴木先生に評価をしていただいたところ、92cpmでは、環境、健康への影響はないと考えられ、こうした製材品を使っても問題はないという評価結果をいただいた。

それから5(2)について、原発事故当時屋外で保管していた製材品を出荷していた6事業所があり、これについては、裏面に6事業所の内訳表がついているが、左から5つ目の欄が今回調査をして実際に製材工場等にある製材品を測った結果で、最大値92cpmという数値が観測されている。

また、既に出荷したものについて確認をするということで、一番右端の備考欄で、その当時自主検査で測定済みというのが1番と3番、事故当時の在庫があったのが2番と4番、これらについては、測定値を確認している。5番と6番は、自社倉庫の梁材として使用している、あるいは屋外に配置されているということで、5番は梁材を検査している。いずれも最大92cpmを下回っており、特に問題はないと考えている。

今後の対応については、新年度において製材工場と木材産業関係団体が自主検査をするための測定機を整備するのを支援することとしており、製材品についてもきちんと測って出荷する態勢を整えていくことと、県としても3ヶ月に一度程度製材品の安全確認をしてまいりたいと考えている。

### **松本副知事より**

一つ確認をさせてください。一番大事なのは個々の対応だと思うが、木材関係団体等への自主検査の支援で機械は何台ぐらいでいつ入るのか。

### **農林水産部担当より**

来年度当初予算で確保する形で、機械は22台ということで現在取り組んでいきたいと考えている。

### **松本副知事より**

どういうところに配置するのか。

### **農林水産部担当より**

場所については、県内の市場と主な製材工場に配置して、そこで製品にした段階で自主検査していただいて安全性を確保していきたいと考えている。

### **松本副知事より**

そうすると、自主検査プラス県の定期検査でダブルチェックになるということでしょうか。

### **農林水産部担当より**

そのとおり。

## **(10) がんばろうふくしまの宣言について**

### **直轄理事より**

昨日震災一年ということで、3.11ふくしま復興の誓い2012を開催させていただいた。復興の誓いということでふくしま宣言というものを知事から宣言させていただいた。内容については、県内国内はもちろん、世界にふくしま宣言を発していただき、我々一丸となって美しい豊かな福島を取り戻すということでがんばっていききたいというふうに思っている。

それからもう一つ、知事から新しいスローガンも発表させていただいた。これまで「がんばろうふくしま」というスローガンの下やってきたが、一年を一つの契機として、世界に誇れる復興を成し遂げようという想いを込め、「ふくしまからはじめよう」という新しいスローガンを作らせていただいた。この新しいスローガンの下で、一丸となって復旧復興にあたっていきたいと思っている。

缶バッジも新しく作らせていただいた。これから量的にも確保してみなさんに着

けていただいてそのスローガンの下がんばっていきたいと思っているので、よろしくお願いしたい。

#### 松本副知事より

このバッチはどういうところに配るのか。

#### 直轄理事より

基本的には、消費組合で取り扱ってもらうことにしている。1個200円で有料となるが、その一部を復興に充てたいと考えているので、缶バッチも含めて皆さんの御協力をよろしくお願いしたい。

#### 松本副知事より

英語で「Future From Fukushima」というふうに3つのFが並んでいて非常に出来も良いのかなと思っているので、是非一年を期に復興に軸足を移していくための励みにしたいと思っているので、是非ご利用いただきたい。

予定していた議題は以上ですが、私から若干話させていただきます。

一つ目は、先ほど農林水産部の相談窓口で話があったが、24年産稲の作付けの方針が決まった。環境整備というか準備するところがずいぶん大であり、また市町村の負担も随分大きくなるので、農林水産部が国と充分連携をし、期間も決して充分あるわけではないが、生産者が自信をもって作付けできる環境づくりに取り組んでいただきたい。

二つ目は、先週木金土と農業関係、土壌汚染関係の国際シンポジウムがあり、最終日には鹿野農林水産大臣にも来ていただいたが、非常に成果があったと聞いている。その中で手前味噌になるが、県の農業総合センターの取り組みが非常に各国から評価をいただいたと思っており、あとはこれを具体的にどういうふうに普及していくかということになるので、その辺についてもしっかりと農林水産部のほうで対応をお願いしたい。

三つ目は、原子力紛争審査会の関係について、先週一応懸案事項のたたき台が出た。たぶん今週ぐらいには方向付けがされていくと思うので、情報収集と必要に応じて地域の意見が十分に反映されるように引き続き働きかけをお願いしたい。

#### 知事より

本当にご苦労さんです。先週は第一原発を訪問し、まさに身を徹して、この一年間収束のためにがんばっていただいている現場の人を激励してまいりました。本当に現実を見て、ああいう中で一日一日がんばっているなど思わず、胸が詰まるよう

な状況でありました。そういうような中でも県のために国のためにということで一人一人がんばっている姿を見て感動しました。

それからまた、双葉8町と国と県3者での会議が初めて開かれたわけですが、それぞれ3者から意見の発表があり、いろんな意味で合意形成をそれぞれはかっているか、いやいけないと思っております。また、福島県のためにということで、この一年間に全国大会とか国際会議が22あったが、先週は経済同友会で、福島県郡山市に2,000人集まっていた。来ていただくことで、本当に福島の現実をしっかりと理解していただけたと思うし、あれが正に風評被害を払拭する大きな力になっていくのかなと思って、改めて皆さんに御礼申し上げた。この一年間それぞれ皆さんには本当にがんばっていただいたこと、心から感謝申し上げます。

昨日の追悼式についても、天皇陛下から本当にありがたい激励のお言葉があり、さらには総理大臣から改めて福島は必ず復興させるという話があった。内閣のほうの皆さんにもしっかりと、改めて総理の言葉を認識いただきたいと思っている。今日からまた新たなスローガンの下、新たなスタートでもあり、これまで一年を振り返りながらさらにまた前進していくように皆さんにお願いしてあいさつにいたします。

本当にご苦労さんでございます。またしっかりとお願いします。

※ 次回は、3月19日（月）10：30から開催する。